



てんかんセンター巡り 第19回

岡山大学病院てんかんセンター

施設概要

- 住所 〒700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1
- 電話 086-235-7744 (総合患者支援センター)
- アクセス 岡山駅からバス(2H、12、22、52、系統)で7分程度、「岡山大学病院入り口」または「岡山大学病院」下車
- ホームページ <http://www.okayama-u.ac.jp/user/tenkan/>
(岡山大学病院のホームページ上のてんかんセンターのページからはリンクボタン独自HPで移動できます)

日本てんかん学会 10名
専門医/指導医

歩み

岡山大学病院は、中国・四国地区の患者団体からのてんかんセンター設立への強い要望を受けて、2013年12月、院内にてんかんセンターを立ち上げました。2015年11月には厚労省の「てんかん地域診療連携体制整備事業」のモデル事業の一環として、岡山県からてんかんの診療拠点病院に指定されました。

岡山大学医学部では歴史的に、てんかんの基礎研究と、小児てんかんの臨床研究を長い年月をかけて行ってきました。その結果、大田原症候群の発見をはじめとして、日本のてんかん研究の中心的役割を果たしてきました。

こうした研究を基盤に、内科的治療では各種の抗てんかん薬の治験を行い、最近承認発売されたラコサミド、ペランパネル、ビガバトリン、オクスカルバゼピンに加えて、アフィニトールの

抗てんかん作用の治験にも参加しています。

診療科間のコラボレーション

てんかん外科治療ではまず、手術適応の有無の判断と、次には切除範囲を決めるという作業が必要となります。当センターでは第一相入院で非侵襲的に外科手術の適応の有無を複数科による合同カンファレンスで判断し、頭蓋内電極留置が必要とされた患者さんでは第二相入院を行います。この入院では頭蓋内に電極を留置した上で発作時脳波を狙い、発作の焦点を詳細に決定してそれが切除可能な部位なのか、どこまで切除すれば発作の完全抑制が狙えるかを再び合同カンファレンスで判断します。

また、乳児の難治てんかんの中には半球離断術といった画期的な手術方法がありますが、こちらにおいても現在のところ、海外成績よりも良い結果を生んでいます。

乳児期から成人まで

近年、小児期(特に乳幼児期)発症のてんかん患者診療において、成人に達しても治療継続が必要なトランジション患者さんが多く存在し、移行期医療の問題は切実です。こういった患者さんを含んで特に成人期発症のてんかん患者さんが受診先に困るという現実があります。



岡山大学病院てんかんセンターホームページ



JEPICA
Japan Epilepsy Center Association
全国てんかんセンター協議会

そこで私たちは、地域のてんかん診療に参加して下さる医師と連携会

議を定期的で開催し、トランジション患者さんを含む成人のてんかん患者さんの精神・心理的症状の扱い、成人の合併疾患の診療、さらには成人期における雇用、運転免許等の種々の問題を包括的に解決することを目指しています。

皆さま是非一度、岡山大学病院てんかんセンターのホームページ <http://www.okayama-u.ac.jp/user/tenkan/> をご覧ください。

今後も地域の患者さんにご満足いただける、てんかん診療の提供に邁進したいと考えています。

(副センター長 吉永 治美)

